

特別活動（全校集会）指導案

日 時 平成21年10月28日（水） 5校時

全校生徒 第1学年19名 第2学年20名 第3学年17名
計 56名

授業者 教諭 戸 來 俊 介

1 題材名

「生徒祭 全校演劇を自分たちの力で創りあげよう」

2 題材設定の理由

（1）題材について

中学校学習指導要領特別活動〔生徒会活動〕において、目標を、「生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成」すること、「よりよい学校生活づくりに参画」すること、そして、「協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる」としている。また、〔生徒会活動〕の内容においては「異年齢集団による交流」が掲げられており、それを重点とした本校の取り組みを題材として取り上げた。

今年度、1学期には、5月に「体育祭を語る会」、6月には「中総体で熱く燃える会」「中総体を語る会」、そして7月には「2学年職場体験発表会」を開催した。進行役やパネルディスカッションでのコーディネーターを教師が務め、話の進め方などを中心に手本を示してきた。2学期に入ると、9月の新人戦に向けて、3年生が壮行式の内容を工夫して盛り上げを図るとともに、「新人戦を語る会」では、生徒会執行部が独自に企画・運営した。自らが進行役となったり、コーディネーター役としての自覚を持ちつつ、他の生徒たちからの意見や感想を引き出す工夫が見られた。また、生徒全般について言えば、自分のメモをそのまま読むのではなく、相手に伝えようとする気持ちを持って話す姿勢や、他の話を聞き、その場で自分の意見を言ったり、意見を言ってみようという生徒が増えてきた。

そこで今回は、生徒祭の全校演劇を自分たちの手で創りあげてをねらいとして毎年行われている本校独自の演劇集会を取り上げた。意見や要望をお互いに出し合いながら、自らの力でより良いものを築き上げる意欲を持たせたい。また、生徒祭終了後に行う「生徒祭を語る会」とあわせて、自分たちの力でやりきったという成就感や満足感を持たせるとともに、3年生のリーダーが今までに培ってきた力を下級生に示すことによって、リーダーはどうあるべきかということについて、新体制となった1・2年生主体の生徒会に考えさせる機会としたい。

（2）生徒について

本校の生徒は、全体的に明るく素直な生徒である。小学校5校が統合した経緯から、通学範囲が広いだけでなく、かつての小学校区の仲間意識が強いところがある。小学校からの人間関係が固定しているところがあり、相互評価をしながらお互いに高めあおうとする意欲にかけるところがある。また、自分なりに考えや意見を持っているものの、自分から進んで全体の前でそれを話したり、発表することなどが苦手な生徒が多く、自分を表現する力に欠ける点が見られた。

しかし、「語る会」や職場体験報告会、壮行式などの企画を通して、少しずつではあるが安心して話すことができるような雰囲気できてきていること、そして、どのように発表すれば相手

に伝わるかということ意識しながら自分の考えを話せる生徒が増えてきている。また、生徒祭の弁論大会に向けて各学年で弁論発表会を行ったが、その中で、自分の実体験に基づいて、自分と他者との関わりについての自分の思いや考えを堂々と発表する生徒が出てきた。より多くの話す場を設定してきたことによる成果が見え始めている。

3 題材に対する指導目標と具体的な手立てについて

(1) 指導目標

- ア 全校演劇を自分たちの力で企画し、話し合いながら、全校でより良いものを創ろうとする意欲を持たせる。
- イ 生徒に理想を持たせ、それをめざして妥協することなくより良いものを創り上げる力を身につけさせる。
- ウ 3年生のリーダーが、今まで様々な活動場面で培ってきた企画力・運営力を発揮し、後輩にリーダーとしてのあり方を示すことによって、より良い伝統を継承させる。
- エ 全校生徒が参加し、創り上げたことによる達成感や満足感を味わわせる。

(2) 目標達成に向けた手立て

- ア 臨時生徒総会を開催し、原案討議を行うことにより、全員で決定したことの意識を持たせる中から、演劇成功への意欲付けを行う。
- イ 実行委員会を組織し、そこが中心となって意見集約などを図りながら、生徒が自主的に運営する体制を作る。
- ウ 係の決定は学級会の討議により決定する。
- エ 係活動が自主的に行われるように指導を行う。
- オ 開始集会⇒係活動⇒係反省⇒全体集会という流れを作る中から、話し合いの活発化を図る。
- カ 生徒祭後に「熱く語る会」を生徒会主催で開催し、達成感や満足感を共有させる。

4 本時の指導について

本校の全校集会（演劇集会）のスタイルは、伝統の全校演劇を成功させるために10年以上前から現在までずっと引き継がれてきたものである。

本時の全校集会では、直前に迫る生徒祭での全校演劇に向けて、8月に行われた臨時生徒総会の議論によって全員で決定した目標に近づけるために、実行委員会が中心となって企画・運営して行うものである。この集会を通して、各係の良いところや、まだ不十分な点について、生徒自身が積極的に意見や要求を出し合い、より良い演劇を創りあげるという意欲を持たせたい。

また、実行委員会が係集会や全体集会の進行を行うことによって、どれだけ多くの生徒から様々な考えや意見、そして感想を引き出すことができるかということも1つの主眼におきたい。

5 研究にかかわって

本校の研究主題である「特別活動における、よりよい人間関係を築くことができる生徒の育成—コミュニケーション能力を高める指導をとおして—」に関わって、コミュニケーション能力を高めるための3つの視点である「情報を伝える」「他者を理解する」「自己開示」において、本時の全校集会ではその総合的な場面設定と位置づける。特に、以下の視点を重視した指導を展開したい。

- ①小集団（係ごと）において、自分の考えを発表すること。（自己開示）
- ②他の係に対する意見や要求を話す（伝える）こと。（情報を伝える）
- ③他から出された意見や要求をどのように取り上げるか。（他者を理解する）
- ④全体の場において、自分の考えや感想を話すこと。（自己開示・他者をする理解・情報を伝える）

6 指導計画

- 8月27日（木） 臨時生徒総会（生徒祭の原案承認と演劇実行委員会を設置することの決定）
- 9月10日（木） 第1回実行委員会（結成）
- 10月 6日（火） 演劇係集会
- 10月13日（火） 演劇の取り組み開始（連日）
 - ・開始集会
 - ・終了集会
- 10月28日（水） 本時
- 10月30日（金） 演劇リハーサル
- 11月 1日（日） 生徒祭
- 11月 6日（金） 「生徒祭を語る会」

7 本時について

(1) ねらい

- ア お互いに意見や要求を出し合いながら、良い演劇を創ろうとする意欲を持つことができる。
- イ 様々な場面で、自分の考えを積極的に話そうとする意欲を持つようとする。

(2) 展開

段階	時間	実行委員の活動	生徒全体の活動	留意点 (支援)	研究との かかわり (☆)
導入	8分	1 開会あいさつ 2 ビデオでの振り返りと本時の集会のねらいの提示 (実行委員長)	1 あいさつ 2 前日の舞台練習のビデオを見て、向上した点や課題を考える。 ・ねらいを把握する。	・実行委員会が進行する。 ・舞台練習の一場面を取り上げる。事前に実行委員会で確認する。	☆あいさつ
展開	34分	3 係集会 (各係長) < 7分 > 4 自分の係に対する課題等の発表 (各係長) < 5分 > 5 各係への質疑・意見・要求の出し合いとまとめ (司会：実行委員長) < 15分 > 6 感想発表 (司会：実行委員会) < 7分 >	3 自分の係についての向上した点や課題を出し合う。また、他の係に対する意見や要求を話し合う。 4 他の係の発表を聞きながら、自分の考えとの共通点や相違点を把握する。 5 係集会で出された意見や要求を発表する。また、個々の意見を発表する。これからの取り組みについて実行委員長がまとめる。 6 意欲的に感想発表ができる。	・教師は自分が担当する係会議につき、必要に応じて支援する。また、誰がどのような発言をしていたかを観察する。 ・話し合いのメモを見て、その要旨をまとめて発表できるように支援する。 ・出された意見や要求をどのように吸い上げていくか教師は必要に応じて司会を支援する。 ・意見の集約の仕方や進行の仕方について、実行委員長に教師が支援する。 ・意欲的に感想発表ができるように実行委員会を支援する。	☆自己開示 ☆伝える ☆他者理解 ☆伝える ☆自己開示 ☆他者理解 ☆伝える ☆自己開示
終末	8分	7 評価<教師> 8 全校合唱 (音楽委員会) 9 閉会あいさつ	7 教師が本時の集会の評価を行う。 8 合唱隊形 9 あいさつ	・今後への意欲に結び付けられるような評価をする。	☆あいさつ

(3) 本時の評価

- ア 自分の考えを発表することができたか。
- イ 自分たちで創りあげようとする意欲が引き出されたか。
- ウ 様々な考えを引き出せるように、進行することができたか。